

SEIKO ASTRON QUICK START MANUAL

7X52 GPS ソーラーウォッチ
クイック スタート マニュアル

全国共通フリーダイヤル **0120-612-911**

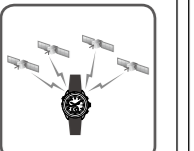
(Only in Japan)
お客様相談室
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル
〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-4-24 大阪四ツ橋新町ビルディング
セイコーウォッチ株式会社
本社 〒105-8467 東京都港区虎ノ門2-8-10
http://www.seiko-watch.co.jp

詳しくは、付属のDVD-ROMに収録されている「ユーザーガイド完全版」もしくは、セイコーウォッチホームページ内にあるサポート情報>取扱説明書 (http://www.seiko-watch.co.jp/support/download) をダウンロードしてお読みください。

1 特長

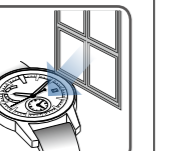
- この時計は、GPS ソーラー*ウォッチです。次のような特長があります。
*GPS とは、Global Positioning System (全地球測位システム) の略です。

世界中どこでも、ボタン操作ひとつで現在地の正しい時刻に合わせることができます。GPS 衛星からの電波を受信し、すばやく時刻を合わせます。世界の全 39 のタイムゾーンに対応しています。

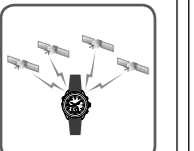


ソーラー充電で動きます。文字板に光を当てて充電してください。フル充電で約 6 ヶ月間動きます。

エネルギー残量がなくなると、フル充電するには時間がかかるため、こまめに充電するように心がけてください。



世界中どこでも、ボタン操作ひとつで現在地の正しい時刻に合わせることができます。GPS 衛星からの電波を受信し、すばやく時刻を合わせます。世界の全 39 のタイムゾーンに対応しています。



*この GPS ソーラーウォッチはナビゲーション用機器とは異なり、普段お使いになっているときに常に GPS 衛星の電波を受信する仕様ではありません。GPS 衛星の電波を受信を行うのは、タイムゾーン修正、強制または自動時刻修正等を行うときのみです。

2 エネルギー残量の確認

インジケータ針の位置で、この時計が受信ができる状態か確認できます。また、エネルギーが少ない状態については、秒針の動きによって、より詳しくエネルギー不足の程度を確認することができます。

*GPS 電波受信を行うには、たくさんのエネルギーが必要です。こまめに光を当て、充電することを心がけてください。

インジケータ表示	エネルギー残量	このようにしてください
	F (十分)	受信できる状態です。
	水平位置 (中くらい)	受信できますが、充電を心がけてください。
	—	機内モード (X) を解除できる環境であれば、機内モード (X) を解除してください。→機内モード (X) 状態を解除するインジケータ針が「E」を指している場合は、上記に従って充電を行ってください。

3 機内モードの設定 (飛行機に乗るとき)

- 機内モード (X) について
- 機内モード (X) 状態にする

飛行機内など他の電子機器の動作に影響を与える可能性がある場所では、機内モード (X) 状態にしてください。機内モード (X) 状態にすると、GPS 電波受信 (タイムゾーン修正・強制時刻修正、自動時刻修正) がはたらかないようになります。

<機内モード (X) 状態>
インジケータ針が X を指している



*機内モード (X) が解除されると、インジケータ針はエネルギー残量を示します。

機内モード (X) 状態を解除する

- ①～③の操作を行ってください。
- ②で、インジケータ針の位置が右図の位置「● ON」を指すと、機内モード (X) の状態の解除ができます。

4 手動タイムゾーン選択 (飛行機内などで目的地の時刻に合わせたいとき)

- 手動タイムゾーン選択について

タイムゾーン修正ができない場所では、手動でタイムゾーンを設定できます。

*サマータイム (DST) の設定は「サマータイム (DST) の設定をする」で行ってください。

- ボタン B を押し、離す
- ①の操作後、約 5 秒以内に、ボタン C を押し続ける (3 秒)
- 5 秒後に自動的に機内モードの設定が終了

秒針は受信結果 (Y, N) を表示し、インジケータ針は受信の方法 (1 または 4+) を指します。

1回押して離す

秒針が 40 秒位置に停止して、インジケータ針が X を指します。

<機内モード (X) 状態>
インジケータ針が X を指している

3秒押し

時刻表示に戻ります。

機内モード (X) 状態になると、時刻表示に戻ってもインジケータ針は X を示します。

→手動タイムゾーン選択 (飛行機内などで目的地の時刻を合わせたいとき)

*①の操作後、約 5 秒以上続くと、自動的に時刻表示に戻ります。時刻表示に戻ったときは、①から操作をやりなおしてください。

機内モード (X) 状態を解除する

- ①～③の操作を行ってください。
- ②で、インジケータ針の位置が右図の位置「● ON」を指すと、機内モード (X) の状態の解除ができます。

5 タイムゾーン修正 (時計を使う地域・タイムゾーンが変わったときは)

- 手動タイムゾーン選択について

タイムゾーン修正ができない場所では、手動でタイムゾーンを設定できます。

*サマータイム (DST) の設定は「サマータイム (DST) の設定をする」で行ってください。

手動タイムゾーン選択のしかた

- ボタン C を押し続けて (3 秒) 秒針が停止したら離す
- ボタン B またはボタン C を押し、秒針を目的地のタイムゾーンに合わせる
- 時分針の動きが止まったらボタン A を押す

秒針が動いて、現在設定されているタイムゾーンを表示します。

3秒押し

*押す時間が短いとタイムゾーンの設定を確認する動作に入りますので、確実に 3 秒間押ししてください。

ボタン B またはボタン C を押し、秒針を目的地のタイムゾーンに移動します。

<インジケータ針の表示>
サマータイム (DST) の ON/OFF の設定を表示しています。

DST	ON	OFF
表示		

*サマータイム (DST) の設定が合っていないときは、③の操作が終わったら、「サマータイム (DST) を設定する」で ON/OFF を切り替えてください。

秒針が動きはじめます。

*日付が動いている間は、ボタン・りゅうすの操作はできません。

押す

*針が動いていない状態が 1 分以上続くと、自動的に時刻表示に戻ります。

6 サマータイム (DST) の設定をする

- サマータイム (DST) について
- サマータイム (DST) の設定を ON にする
- サマータイム (DST) の設定を OFF にする

地域によっては個別に【サマータイム (DST)】が設定されています。サマータイムとは夏時間のことで、夏の日照時間の長いときに、時刻を通常 1 時間進めて昼間の時間を長くする制度です。欧米を中心に世界の約 80 ヶ国で実施されています。サマータイム (DST) の実施期間や実施地域は国によって様々です。*各地域のサマータイム (DST) は、国または地域の都合により変更される場合があります。

サマータイム (DST)
Daylight Saving Time = デイライト セイビングタイム

サマータイム (DST) の設定を ON にする

- ボタン A を押す
- ①の操作後、約 5 秒以内に、ボタン C を押し続ける (3 秒)
- 時分針の動きが止まると約 5 秒後に自動的に DST 設定モードが終了

インジケータ針が動いて、現在のサマータイム (DST) の設定を表示します。

<サマータイム (DST) の設定が OFF の状態>

押す

インジケータ針が動いて「ON」を指し、時分針が 1 時間分進みます。

*インジケータ針の位置によって、時刻表示に戻る時間は変わります。

*時分針の動きが止まったら、5 秒以内にボタン A を押し、時刻表示に戻ります。

3秒押し

*時刻表示に戻ったときは、①から操作をやりなおしてください。

サマータイム (DST) の設定を OFF にする

- ①～③の操作を行ってください。
- ②の操作ではインジケータ針を右図の位置「OFF」に合わせてください。時分針が 1 時間分戻ります。

タイムゾーン修正に関する注意事項

タイムゾーンの境界線付近でタイムゾーン修正を行うと、隣接するタイムゾーンの時刻が表示されることがあります。これはしくみ上起こりうること、故障ではありません。その場合には手動タイムゾーン選択でタイムゾーンの設定をしてください。陸路の移動途中でタイムゾーン修正を行う際はタイムゾーン境界付近を避け、出来るだけそのタイムゾーンの代表的な都市で行うようにしてください。また、タイムゾーン境界線付近で使用するときは、必ずタイムゾーンの設定を確認し、必要に応じて手動でタイムゾーンの設定を行ってください。

タイムゾーン修正のしかた

- 受信しやすい場所へ行く
- ボタン B を押し続けて (6 秒) 秒針が 30 秒位置に移動したら離す
- 時計を真上に向けたまま待つ
- 秒針が「Y」または「N」を指したら、受信終了

空が見えて視界が広い屋外などへ移動します。

6秒押し

※移動中は受信しにくくなる可能性がありますのでご注意ください。

受信終了までにかかる時間は、最長 2 分です。

*受信の状況によります。

<受信中の表示>
秒針が受信のしやすさ (受信中の GPS 衛星の数) を示します。

*表示が 4 基以上を示していても、受信できない場合があります。

*受信をキャンセルさせるときは、ボタン A を押し、秒針を真上に向けたまま待つ

受信結果表示

Y: 成功	N: 失敗
表示	

*日付が動いている間は、ボタン・りゅうすの操作はできません。

*サマータイム (DST) の設定は手動で行ってください。

押す

*針が動いていない状態が 1 分以上続くと、自動的に時刻表示に戻ります。

タイムゾーン修正に関する注意事項

タイムゾーンの境界線付近でタイムゾーン修正を行うと、隣接するタイムゾーンの時刻が表示されることがあります。これはしくみ上起こりうること、故障ではありません。その場合には手動タイムゾーン選択でタイムゾーンの設定をしてください。陸路の移動途中でタイムゾーン修正を行う際はタイムゾーン境界付近を避け、出来るだけそのタイムゾーンの代表的な都市で行うようにしてください。また、タイムゾーン境界線付近で使用するときは、必ずタイムゾーンの設定を確認し、必要に応じて手動でタイムゾーンの設定を行ってください。

タイムゾーン修正のしかた

- 受信しやすい場所へ行く
- ボタン B を押し続けて (6 秒) 秒針が 30 秒位置に移動したら離す
- 時計を真上に向けたまま待つ
- 秒針が「Y」または「N」を指したら、受信終了

空が見えて視界が広い屋外などへ移動します。

6秒押し

※移動中は受信しにくくなる可能性がありますのでご注意ください。

受信終了までにかかる時間は、最長 2 分です。

*受信の状況によります。

<受信中の表示>
秒針が受信のしやすさ (受信中の GPS 衛星の数) を示します。

*表示が 4 基以上を示していても、受信できない場合があります。

*受信をキャンセルさせるときは、ボタン A を押し、秒針を真上に向けたまま待つ

受信結果表示

Y: 成功	N: 失敗
表示	

*日付が動いている間は、ボタン・りゅうすの操作はできません。

*サマータイム (DST) の設定は手動で行ってください。

押す

*針が動いていない状態が 1 分以上続くと、自動的に時刻表示に戻ります。

サマータイム (DST) の設定をする

- サマータイム (DST) について
- サマータイム (DST) の設定を ON にする
- サマータイム (DST) の設定を OFF にする

地域によっては個別に【サマータイム (DST)】が設定されています。サマータイムとは夏時間のことで、夏の日照時間の長いときに、時刻を通常 1 時間進めて昼間の時間を長くする制度です。欧米を中心に世界の約 80 ヶ国で実施されています。サマータイム (DST) の実施期間や実施地域は国によって様々です。*各地域のサマータイム (DST) は、国または地域の都合により変更される場合があります。

サマータイム (DST)
Daylight Saving Time = デイライト セイビングタイム

サマータイム (DST) の設定を ON にする

- ボタン A を押す
- ①の操作後、約 5 秒以内に、ボタン C を押し続ける (3 秒)
- 時分針の動きが止まると約 5 秒後に自動的に DST 設定モードが終了

インジケータ針が動いて、現在のサマータイム (DST) の設定を表示します。

<サマータイム (DST) の設定が OFF の状態>

押す

インジケータ針が動いて「ON」を指し、時分針が 1 時間分進みます。

*インジケータ針の位置によって、時刻表示に戻る時間は変わります。

*時分針の動きが止まったら、5 秒以内にボタン A を押し、時刻表示に戻ります。

3秒押し

*時刻表示に戻ったときは、①から操作をやりなおしてください。

サマータイム (DST) の設定を OFF にする

- ①～③の操作を行ってください。
- ②の操作ではインジケータ針を右図の位置「OFF」に合わせてください。時分針が 1 時間分戻ります。



7 強制時刻修正 (時刻のみを合わせたいとき)

強制時刻修正について



設定されているタイムゾーンの、正確な現在時刻に合わせることができます。
(タイムゾーンの変更は行いません。)

強制時刻修正のしかた

- 受信しやすい場所へ行く**
空が見えて視界が広い屋外などへ移動します。
- ボタンBを押し続けて(3秒)秒針が0秒位置に移動したら離す**
秒針が0秒位置に移動して受信がはじまります。インジケータ針は「1」を指します。
※インジケータ針がEまたは「X」を指しているときは受信の操作をしても受信がはじまりません。「E」を指しているときは、光をあてて充電をしてください。「X」を指しているときは、機内モード(X)を解除してください。
- 時計を真上に向けたまま待つ**
受信にかかる時間は、最長1分です。
※受信の状況によります。
<受信中の表示(捕捉衛星数)>
秒針が受信のしやすさ(受信中のGPS衛星の数)を示します。
※時刻情報のみを取得するため、受信に必要な衛星の数は1基です。
補足衛星数
表示
状況
受信しやすい
受信できない
- 秒針が「Y」または「N」を指したら、受信終了**
受信結果が5秒間表示されます。その後、時分針が動き、時刻・日付が合います。
受信結果表示
表示
状況
Y: 成功
N: 失敗
受信しやすい
受信できない
※受信をキャンセルさせるときは、ボタンAを押してください。

8 小時計の時刻合わせ

小時計の合わせかた

- 小時計は、24時間制で時刻を表示します。
- 基本時計のタイムゾーンを変更しても、小時計の時刻は変わりません。
- 基本時計とは独立して動いています。

- 1 りゅうずのロックをはずす**
りゅうずのロックをはずす。
りゅうずを左(下方向)に回してください。
ねじが緩んで、りゅうずが操作できるようになります。
- 2 りゅうずを1段引く**
小時計の時刻合わせのモードに入ります。
(基本時計と小時計は動いたままです。)
- 3 ボタンBまたはボタンCを押しして時刻を合わせる**
- 4 りゅうずを押し戻す**
操作は完了です。

9 手動時刻修正 (手動で時刻を合わせたいとき)

手動時刻合わせ修正のしかた

- 再び受信可能な環境で使うときは、電波を受信して時刻を合わせてください。
- 時刻を修正するときは、日付が連動して動きます。

- 1 りゅうずのロックをはずす**
りゅうずのロックをはずす。
- 2 りゅうずを2段引く**
秒針が13秒位置に移動し、停止します。
- 3 ボタンAを押し続けて(3秒)秒針が0秒位置に移動したら離す**
秒針が0秒位置に移動し、停止します。
手動時刻合わせのモードに入ります。
- 4 ボタンBまたはボタンCを押しして時刻を合わせる**
- 5 時報などに合わせてりゅうずを押し戻す**
操作は完了です。
時計が動きはじめます。

※電波が受信できない場合でも、通常のクォーツ時計と同じ精度でお使いいただけます。(平均月差±15秒)
※手動時刻合わせの後で電波を受信したときは、受信した時刻を表示します。

10 手動日付修正 (手動で日付を合わせたいとき)

手動日付合わせ修正のしかた

手動日付合わせに関する注意事項
この時計は、GPS電波を受信して、自動で時刻やカレンダーを修正しますので、GPS電波が受信できない環境以外ではこの操作を行わないでください。基準位置ずれの原因になります。

GPS電波が受信できない環境で、自動で日付が変わらない場合(小の月から大の月に変わる際など)は、手動で日付を合わせてください。

- 日付は、時刻に関係なく単独で合わせることができます。
- 再び受信可能な環境で使うときは、GPS電波を受信して時刻・日付を合わせてください。→5タイムゾーン修正

※GPS電波の受信に成功しても日付が合わないときは、日付の基準位置がずれていると考えられます。→基本操作マニュアル「日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる」P.25~26

- 1 りゅうずのロックをはずす**
りゅうずのロックをはずす。
- 2 りゅうずを2段引く**
秒針が13秒位置に移動し、停止します。
- 3 ボタンBまたはボタンCを押しして日付を合わせる**
- 4 りゅうずを押し戻す**
操作は完了です。

11 「うるう秒」情報受信

「うるう秒」情報受信について

この時計は毎年6月1日以降と12月1日以降に、GPS信号を最初に受信した直後から「うるう秒」情報を取得するモードに入ります。うるう秒の実施の有無に関わらず必ず半年ごとに行います。自動で受信を開始しますので特別な操作は不要ですが、「うるう秒」情報の取得には、時刻修正より長い時間が必要ですので、空が開けた屋外などで受信を完了してください。

「うるう秒」情報を取得しようとしている状態
通常の時刻表示と異なる動きをしますが、不具合ではありません。

インジケータ針が「4+」の右側を指し示します。

- 秒針が1分ごとに逆方向に動き、「うるう秒」情報受信開始までのカウントダウンを行います。
※最大18分かかることもあります。
- 秒針が12時位置になると、「うるう秒」情報受信が始まります。受信が良好の場合は、秒針は1時位置に移動して「うるう秒」情報を取ります。(約1分以内)
- 受信に成功した場合は、秒針が「Y」を示します。

※秒針が1秒の位置を指したら、「うるう秒」情報の受信開始まで1分以内ですので、屋外などの受信可能な環境で受信を完了させてください。
※うるう秒情報受信待機中は、ボタン操作を行わないでください。

「うるう秒」情報の取得を完了するまで「うるう秒」情報を取得するモードに入ること繰り返しますが、この間時刻修正は行われません。
万一、受信結果「N」の表示が続く場合は、屋外などの受信可能な環境でボタンBを3秒間押し続けて、強制受信による時刻情報、「うるう秒」情報の受信を行ってください。

※十分なエネルギー残量が必要ですのでこまめな充電をお願いします。
詳しくは、基本操作マニュアルのP.18をご参照ください。

うるう秒について
うるう秒は天文学的に決められた世界時(UT)と国際原子時(TAI)とのずれを補正するためのものです。必要に応じて6月末または12月末に「1秒」挿入(削除)されることがあります。

